

消費者と提携し地域農業を守る

下郷農協



2016

7

No. 653

January

迎春



健康米生産組合と

門司の学童クラブすだち

稲作体験交流の仕上げに「餅つき交流会」



新年のむあつらひ

代表理事組合長 矢崎 和廣



謹んで初春のご挨拶を申し上げます。

新しい年を迎え、組合員・消費者・地域のみなさまにおかれましては穏やかにお過ごしのことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は、引き続き厳しい農業情勢の中、農協事業にご理解ご協力を頂き、心より感謝申し上げます。

申年は努力が形になっていく年

今年「申年」です。辞書で調べましたら「伸ばす」という意味があり、「草木が伸びきった時期で実が成熟して香りと味がそなわり固く殻に覆われて

いく時期」とあります。また、「悪い事が去る」「病が去る」など良い事や幸せがやってくるという年とする説もあります。

農協としても昨年3月22日に信用事業を譲渡し、貯金事業を行わない総合農協として頑張っています。まだまだ安定とは行きませんが、今年「信用事業譲渡」という努力が形になり、組合員にも良い事がやってくる年」となるようにしたいと思います。

参院選で安倍政権の暴走にストップを

政治に目を向けますと、「TPPの大筋合意」はこれまでの公約を平気で破った結果であり、この事に対してしっかりと意思表示しなければならぬと思います。

TPPにより日本の農業、医療、そして生活はどうなっていくのでしょうか。政府は国際競争

力をつけ、輸出していく絶好の機会だと、大規模化・法人化を進めています。全国で9割を占めるであろう家族農業は切り捨てられています。そうなれば地域農業、地域はどうなっていくのでしょうか。国民皆保険制度が無くなり、保険がきかず病院にもかかれない人たちが増加します。アベノミクスによる反動により生活は厳しくなっている中、

TPPにより壊滅的な危機が訪れると考えられます。その上、2014年8%に引き上げられた消費税を来年4月に10%にします。ただ、選挙に向けて「軽減税率」と称して食料品の税率を8%に据え置く措置で対応しようとしています。これまで平気で公約を破ってきた政府を信じて欲しくないし、そもそも10%に増税だという事も忘れてはいけません。

TPP、消費税増税、そして戦争法など暴走する安倍政権に、夏の参議院選挙で審判を下しましょう。

厳しう中でも

農協の役割発揮

農業、特に畜産を取り巻く状況は今年も厳しいと思います。

初期投資も大変な畜産は新規就農も厳しいのが現状ですが、何としても新規の黒豚生産を開始して早急に需給バランスを整えたいと思います。

事業の基本方針として掲げています「生産の維持・拡大」も道なかばですので、農家と一層協議を進めながら引き続き生産拡大に全力をあげ、農協の経営も安定させなければなりません。あわせて農協改革なども進められる中、協同組合運動も展開しながら、生産者が安心して農業に取り組める環境作りに頑張つて参ります。

決して楽な状況ではございませんが、今年一年、少しでも農家組合員の営農と生活が向上し、地域が維持・発展することが出来ればと願ひ、頑張つていく所存です。

組合員、そして消費者の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。寒い折です。どうぞ体調には気をつけて下さい。今年もよろしくお願ひ致します。



除草頑張った合鴨の「命」一緒にいただく

健康米生産者と門司の子ども達が餅つき交流で

12月12日、下郷農協健康米生産組合（吉原和泉組合長）の会員他6名が、門司こぼと保育園に隣接する「学童クラブすだち」（中谷淳代表）へ出向き、稲作体験交流の仕上げとして餅つきで交流を行いました。

また、無農薬米栽培の除草作業で活躍した合鴨を皆でいただき、「命」の大切さも学び合いました。

餅つき交流は6月に下郷での田植え、夏の雑草取りや合鴨見学、10月の稲刈り体験に続く最後の仕上げとして企画しました。稲作体験を通じて農業や食べ物大切さを学んだ子どもたちにも、楽しく餅つきを体験してもらい、美味しいお餅を食べてもらおうと、健康米生産組合の生産者らが出向いて行われました。餅つきには、小学校1〜6年生の児童約60名と先生5名が参加、生産者のアドバイスを受けながら、みんなの掛け声に合わせて子ども達が交代で一生涯命



に杵を搗き、搗き上がったお餅を手際よく丸めていききました。出来上がったお餅は、学童クラブすだちが準備した下郷食材をふんだんに使ったトン汁と美味しく頂きました。

また、今回は無農薬栽培の除草を頑張った合鴨を皆でいただき、「命」の有り難さも一緒に学び合いました。

餅つき交流に参加した健康米生産者は、「来年も田植えに始まり食するまでの交流を続けていきたい」と話していました。

(M)

知恵と経験交換し共に存続めざす

『小農学会』設立総会

「小さな小さな農協」下郷農協も参加

このほど、福岡市の西日本新聞会館で、「小農学会（仮称）設立趣意書」に賛同する人々が集まり、萬田正治氏（元鹿児島大学副学長）らを代表に、「小農学会」の設立総会が行われました。

小農とは、「農的暮らし、田舎暮らし、菜園家族、定年帰農、市民農園、半農半Xなどで取り組む都市生活者も含めた階層こそが新しい小農と定義づけた」と、萬田代表。

設立趣意書には、「…これまでの価値観から抜け出し、斬新な発想に立って、自らの生き方と、わが国の進路、とりわけ農業・農村社会の方向性を探求していく必要がある。それには既成の組織やマスメディアの情報にのみ依存せず、自らの意志と頭で学習を積み重ね、研鑽する努力が今求められている。貨幣経済が進み、人は都市に集中し、村の小学校は廃校となり、集落が消滅し農村が寂れていく。にもかかわらず相変わらずの単作



化・大規模化・企業化の道を推し進めようとする農政の流れ。それ

に抗してもう一つの農業の道、複合化・小規模・家族経営・兼業・農的暮らしなど、小農の道が厳然としてある。…このいずれが農村社会の崩壊を押しとどめることができるのであろうか。これを明確にしなければならぬ。このため、小農の道をめざす勢力がもつと結集し、研鑽し、社会的発言力を高める必要があるのではないかと。故に小農学会の設立を提案する。（一部省略）と示されています。

設立総会では、副代表に徳野貞雄氏（熊本大学名誉教授）や、世話人に古野隆雄氏・宇根豊氏、顧問に竹熊宜孝氏・津野幸人氏らが選ばれました。

共同代表のひとり山下惣一氏（農民・作家）は、ある紙面で「…政権がTPP何するものぞ！の鼻息の荒さだが、本当にそうだろうか。いざれ分かることだが、強い農業が生き残るのではなく、生き残った農業が強いのだ。私たちは足元の現実を直視するところからスタートして必ず生き残ってみせる。（一部省略）」と、設立への思いを述べていました。

下郷農協は「小農」家族農業」をこれからも農業生産の基礎に据え、産直事業の展開を図って行く上で、大いに結集・研鑽し、存続をめざします。

(Y)



「つながり」大切に耶馬溪牛乳を生産 鎌城地区で頑張る若き3代目酪農家

下郷農協新聞の新春企画「新春座談会」は、2016年のテーマを「農業後継者」として、下郷農協・地域農業において主力産業でもある酪農の後継者にスポットをあててみました。

農業後継者の問題は、これからの農協・地域農業にとって避けて通ることのできない課題ですが、これからの酪農を担っていく鎌城地区の若き3代目後継者の皆さんと下郷農協矢崎組合長に、夢や展望、農協の役割などについて語って頂きました。

コーディネーターは、耶馬溪酪農組合OBの原洋二さんです。また、座談会の会場として原さん宅をお借りしました。

農協の役割発揮で

「夢」実現へ

原 明けましておめでとうござ

います。今回の新春対談は、鎌城地区の若い酪農後継者と組合長の対談ということで、酪農OBの私が進行役を務めますので、よろしくお願いします。まずは、各生産者より自己紹介をお願いします。

脇坂 脇坂伸彦です。いま38歳で、酪農を始めて17年経ちました。現在は搾乳牛60頭、育成牛・和牛・子牛等入れて全頭数で約300頭を飼育して

います。

昨年是一年間安定して生乳を生産出来たので、これからは健康な乳牛を飼育し分娩回数10産以上の長生きする健康な乳牛を飼育しながら、さらに生産を上げていきたいと思っています。

山崎 山崎智広、30歳です。酪

農は今年で10年目になります。酪農をするきっかけは小さい頃から家に牛がいて、兄弟がいる中でいつかするのだろうなと思っていたら、父から「酪農をやらなにか」と言われ決心して帰ってきました。

今は搾乳牛・育成牛・和牛それぞれの子牛合わせて90頭を弟らと一緒に飼育しています。昨年は飼育頭数も増えましたが、ここ一年間一日3回の搾乳に取り組み生産量も大幅に増加、大変勉強にもなりましたし酪農家として成長できた一年でした。

小池 小池悟です。耶馬溪酪農組合では一番年下の26歳です。

農業大学校を卒業し帰って来て6年になります。飼育頭数も少なく色々な面でマイナスからのスタートでしたが、搾乳牛23頭・経産牛26頭・和牛を入れて40頭と、ようやく牛舎も一杯になりました。今は乳量も増え、毎日楽しくやっています。

組合長 明けましておめでとう



原 洋二さん

農協職員を経て酪農家として鎌城地区へ。優良生産者の一人として耶馬溪酪農組合をけん引されていたが体調を壊し5年前に離農。現在は牧草地で地域の人たちと地小麦や蕎麦の生産に取り組む。

ございます。農協総会でも組合員から意見がありますように、全国的にも農業後継者問題は深刻であり、今回は下郷農協事業の柱でもある酪農の3代目後継者として頑張っている皆さんに色々お話を聞かせて頂き、これからの農協・地域農業について語り合えればと思います。

酪農に関わらず、世代が変わる時は様々な弊害も生まれると思いますが、先ほどの自己紹介を聞く中では、比較的スムーズな移行で「よしやろう」と、やりがいを持って頑張っているなど、心強く感じました。どうぞよろしくお願います。

「バランス重視」で乳量・乳質改善

原 親から酪農経営を引き継いだわけですが、「自分では

何を変えた。新しく取り入れた」というものがありま



脇坂 伸彦さん

現耶馬溪酪農組合長。長野県の酪農大学校を卒業後、両親を手伝い10年前に酪農経営を引き継ぐ。両親と兄弟3人で酪農・和牛繁殖など分担しながら家族農業に取り組む。

山崎 まだまだ、親に色々言われるという事は、出来ていない部分が沢山あります。自分は原洋二さんを目標に、一頭当たりの乳量を増やすため、乳牛の飼育環境の改善に取り組んでいます。

小池 私は親から引き継いで、先ず搾乳手順の見直しや、配合飼料から投与していたものを粗飼料から順番を変え、搾乳量と飼料投与のバランスを重視することで、搾乳量・乳質が安定してきました。

脇坂 自分はマットを変えた位です。10年前にチップ入りの二重マットに変えてノコクズも敷き、それからは乳牛の足が腫れなくなりましたし、立てない様な牛も立てる様になりました。乳量も2〜3キロ増加

しました。やはり人間と同じで過ごし易い環境にすると乳牛にも乳質にも良い影響が現れます。

心強い「後継者の向上心」

原 親から引き継いで皆さん色々工夫していますが、酪農をやっている何か問題点や「どうすればいいだろうか」という事はありませんか。

脇坂 今は耶馬溪酪農組合の組合長を任されていますが、他人に指摘されると気づく点もあるし、他の酪農家のやり方を見るのも勉強になるので、研修の機会を増やしていかないと、飼育改善の幅が広がらないと感じます。

山崎 事故を無くすことが課題

です。一昨年は分娩後の人的な死亡事故が多かったので、分娩前にしっかりと体温を計りタイミングを見定めて分娩に立ち会ったり、分娩後の管理を徹底するため牛舎にいる時間を少しでも長くとっています。取りあえずは3年間無事故を目標にやっています。

小池 乳牛が大型化しているし、健康面を考えると牛床の長さをもう10〜20センチ改善したいと思っています。そのためには、牛舎の改良や糞尿処理等の作業面の負担はありますが、乳質の向上にも欠かせないと考えています。

組合長 ここ1〜2年で乳量が増加したことも一つの要因でしょうが、皆さんから出される話は親から受け継ぎ自分な

りの工夫や取り組みで「自信」を付けた上での新たな課題や問題点で、健康な環境で乳牛を育て、さらに上を目指そうとしているように、心強く感じます。

特に乳質の中でも、平均で体細胞菌が一桁台を維持し、成分でもペナルティはどこにもない様な高成績だと聞いていますので、これからも安心して美味しい耶馬溪牛乳の生産に頑張ってもらいたいと思います。

「時間かかっても

乳が出るのは楽です」

原 酪農は365日同じ作業の連続で、ややもすると毎日ハリが出ない状況に陥りやすくなり

ます。が、若くてやる気のある3人の「これから」の目標は何ですか。

脇坂 生涯

乳量の向上で経営の安定化を図りたいと思います。

先ほども話しましたが、健康な乳牛を育てて分娩回数をさらに増やすことで実現したいと考えています。

それと今から飼料米の取り組みが始まるので、それに向けて飼料割合の配合計算を見直し、乳質を維持しつつコスト削減を目指していきます。新しい挑戦として「乳牛に国産米を食べさせている牛乳」としてアピールも出来ると思います。

山崎 分娩を10〜14回もさせる健康な牛を育てているので追いつくのも厳しいですが、近いところでの目標は脇坂伸彦さんを乳量で超える事です。そして将来は大きい牧場にして酪農だけで生活できる事を基本に、乳量2トを5〜10



小池 悟さん

6年前に県内の農業大学を卒業後、家に戻り酪農を引き継ぐ。耶馬溪酪農組合員の中では一番若い後継者でフットワークが軽く、出来る事は直ぐに実行。

年後には出したいと思っています。そのためにも、安全で美味しい耶馬溪牛乳をしっかりと作り、消費者に届けたいです。

搾乳作業が1〜2時間余計にかかっても、乳が出るのはすごく楽しいです。

小池 当面の目標は、分娩後の事故などが増えるので、廃牛を出さないように努力していきます。

搾乳牛26頭が30頭を超えてくれば800キロを達成すると思います。この目標を超えられれば、次の目標を定めます。

「つながりを一緒に」が

下郷農協の役割

原 鎌城地域で酪農の3代目と



山崎 智広さん

山口県下松市で会社勤めをしていたが、10年前に戻り酪農を引き継ぐ。現在は弟らと協力し酪農・和牛等、幅広く畜産を営む。家族は奥さんと3人の子どもさん。

して親から引継ぎ、下郷農協と一緒酪農を続ける中で、将来の夢や展望、農協に対する要望等がありますか。3人を代表して酪農組合長に聞きたいと思います。

脇坂 酪農はある意味特殊な仕事であり「酪農」しか頭に入っていないし、搾乳し牛乳を出荷する事しかできないので、どう繋げるかと言えば、消費者に現場を見てもらい、生産者が直接話をすることで印象も変わるし、一定の値段でも価値を分かって買ってもらえらると思うので、その繋がりを一緒にしてもらうのが下郷農



「地域農業を守りたい」と語る矢崎組合長

協の役割だと思っています。

酪農経営は厳しいので、農協との関わりがつつい乳価だけの関係になりがちですが、農協と一緒に外部にも目を向け、先進地や優良と言われる所にも視察に向き、自分の経営に生かす必要性がますます求められます。

消費者交流や視察研修は大変だけど他の酪農家とも連携し、しっかりと7戸が一緒になって頑張らないといけない時だと感じます。

原

若い後継者が目標を持ってやる気を出して頑張れば、きっと7戸の酪農家が一致してやっけて行けると思います。視察の件についても、毎日同じ作業を続けていると、色々な考えが浮かばなくなるので、一流といわれる人の現場を見る事も大事になってきます。百姓は「論より証拠」なので、口で色々言うより、その人がやっている現場を見れば分かるし、その違いが何処にあるのか、良い部分を吸収し

て自分の経営に取り入れれば変わっていくるので、消費者交流も含め出来る限り外部との交流を進める事が重要です。それでは最後に、組合長より3人の話を聞いて、感想などお願いします。

組合長

なかなか一緒の場所で3世代目の若い生産者の夢や取り組み状況を聞く機会が無かったので、本日は本当に良かったですし、たくさんの元気をいただきました。そして、それぞれの目標の実現に対し農協としての責任も痛感しました。

酪農に限らず、黒豚・冠地どり・米・野菜など生産を維持して頂くためにも、しっかりと農協を守っていく事が役割の発揮に繋がると思います。そのうえで、今後も生産者・農協が一緒になって産直消費者と連携を強め、農協・地域農業が生き残っていくためにも、引き続き「つながり」を大切にしながら、交流を深める取り組みを進めていきます。

農協の維持・発展という点では、生産者には時に厳しいことも提案させて頂くこともあると思いますが、援助できることは最大限させて頂きながら、しっかりと生産者・地域農業を守っていききたいと思っています。本日は有難うございました。



鎌城産小麦で作ったケーキをいただきながら…

鎌城開拓の歴史(つづき)

*武田さんの家族を含む日本人が満州へ渡った背景について少し補足します。

長野県下伊那郡阿智村に「満蒙開拓平和記念館」があります。「中国東北地方にかつて13年間だけ存在した幻の国『満州国』。ここに日本から約27万人の農業移民が渡っていききました。『満蒙(まんもう)開拓団』です。『20町歩の地主になれる』『満州は日本の生命線』一夢を抱いて渡った新天地でしたが、1945年8月9日、突然のソ連侵攻で満州は戦場と化し、開拓団の人たちは広野を逃げ惑います。終戦後も祖国に帰ることができず、難民収容所では飢えと寒さで大勢亡くなりました。日中双方に多くの犠牲を出した『満蒙開拓』とはいったい何だったのか。私たちはこの歴史を風化させることなく後世に伝えるため、その拠点として記念館をつくりました」(同館パンフレットより抜粋)

また、『満蒙開拓団の史実に学ぶ(NHKオンライン)』によれば「満蒙開拓団のうち最も多いのが長野県のおよそ3万3000人でした。

ようやく帰国した後も再び移住を余儀なくされ、北は北海道から南は九州の宮崎まで20の都道府県、ブラジルに移民した人もいます(抜粋)」とされています。

季節保育所について述べた宮沢てる子さんの文章に「はじめは近所の子ども以外に顔見知りがいなかったためなじみずくにいたが」とあり、私は「鎌城はみんな顔見知り」と勝手に思いこんでいたので、車のメーターで実測してみると、ことにしました。結果はなんと、最北の林さん宅から最南の遠山さんまで約5kmあり、車もない時代に就学前の幼児ですから会ったことがないのも当然でした。

鎌城婦人会の取り組みは、この他に「昭和37年・幼児のため町と部落より補助金を出してもらい『ブランコ』を設置する」「昭和43年・修学旅行の子供に負担をかけぬよう饅頭を廃止し、見舞返しも止める」「同年・北九州との交流ワラビ狩り等始める。各班でオニギリを作り各戸で手造りの料理を持ち寄り楽しい一日を過ごす。多い時には200人もの申込みがあり、このような催しが毎年行われて

きている」「昭和50年・普及所の招きで春の潮干狩り、ブローチ作り、編物講習を受け」などが『開拓30周年記念誌』に記されています。

「水に困ることはありませんでしたか」と尋ねてみると「共同宿舎のあった近くに『おとわ水』(湧水か?)が出ていたので、毎日何回も水汲みに行った。これは女の仕事」と武田美恵子さんはいいます。おとわ水：京都の音羽山清水寺に「音羽の滝の水」があります。「おとわ水」の名はこの清水寺の滝の水に由来するのでしょうか。開拓者の誰かが名付けたものではないとのことでした。

また、女性用の開墾鋤は2キロあったそうです(男性用は3キロ)。河合和巳さん宅には開墾鋤が残っていると聞き、見せていただきました。今でも使っているという鋤もあり、大切に保管され、状態の良いものばかりでした。

「開拓者の生活は甘いものではなく、新婚早々から明けも暮れても男なみに鋤をぶらって59年、今日あるは妻たちのお陰と感謝している」(『河合回想録』より)。



武田美恵子さんと公民館の乳業像

つ導入して酪農の歴史が始まりました。当初、乳も手搾りであったが朝早く起き、今は無き耶馬溪鉄道の白地駅迄6kの道をランブ片手に乳を背負い、一番の汽車に遅れまいと、急な山道をかけ下り出荷していました。昭和34年乳牛飼育頭数も増え、牛乳の出荷も、どうにか馬車を通れる道ができたので、馬車輸送に変わりました。昭和38年には乳量も増大し、二トトラックによる輸送に切り替わりました」と振り返っています。

玉井十一さん、河合和巳さん、伊原保さんにお話しを伺ったとき「貨車で乳牛(ホルスタイン)が運ばれてきたときは、その牛の大きさに驚いた」と話していました。

購買部

「AED」設置しています。

購買部ふれあいの店では、店内に「AED」（自動体外式除細動器）を設置しています。
もしもの時、「かけがえない命を守るため」「私たちがひとりひとりができること」として活用ください。

あ、人が倒れている!!



組合員の皆さまへお知らせ

～組合員資格の確認について～

いつも下郷農協をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。
組合員の皆さまに組合員資格について組合加入当時よりご変更がないか、ご確認をお願いいたします。

1. 氏名・住所の変更のあった方
2. 正組合員から准組合員への資格変更
 農業を辞められた方 1年のうち90日以上農業に従事しなくなった方
 農業経営を辞めた法人
3. 准組合員から正組合員への資格変更
 農業を始めた方 1年のうち90日以上農業に従事する方
 農業経営を始めた法人
4. その他の変更
 相続による名義変更が必要な方
 農業を辞めた方で農用地利用集積計画にもとづき利用権を設定し、農用地利用改善事業実施団体の構成員となっている方

上記に該当する組合員の方は、下郷農協（管理部）までご連絡を下さいますよう、お願い申し上げます。
2016年1月

※組合員資格につきましては、当農協定款第12条に基づきます。
＜お問い合わせ先＞ 下郷農業協同組合（管理部） TEL:0979-56-2222

農業者年金で

しっかり積立て、 がっちりサポート 安心して豊かな老後を

- あなたの老後生活への備えは十分ですか？
- 年金は家族一人ひとりについて準備することが大切です。
- 老後の備えは国民年金プラス農業者年金が基本です。

ご存じですか？

農家の方は長寿ですが…
 老後はお金の心配をせずに暮らしたい。しかし、予測不可能な経済変動や思わぬケガ・病気もあります。
 ・65歳の農業者年金受給者の平均余命は男性22年(87歳)、女性27年(92歳)
 ・日本人の平均余命は男性84歳、女性89歳であり**農業者年金受給者の平均余命の方が長くなっています。**

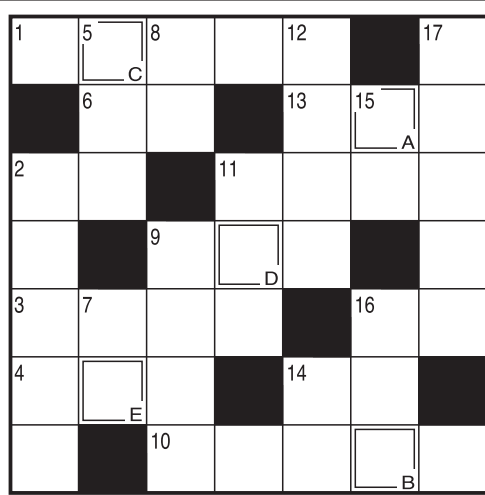
こんなにかかる老後生活
 (現金支出で年額約286万円)
 高齢農家世帯(世帯主が65歳以上の夫婦2人)の家計費は、現金支出で月額約23万8千円が必要です。(総務省家計調査などより)

国民年金の支給額は
 一人、月々約6万5千円(40年加入の場合)
 夫婦あわせて月額約13万円です。



豊かな老後生活のためには、国民年金だけでは十分とは言えず、**老後の生活費は自分で準備する必要があります。**
 サラリーマンは、厚生年金や共済年金で国民年金(基礎年金)への上乗せがあります。(厚生年金のモデルケースでは月額22万2千円の年金額)
 農業者の皆様も、メリットがたくさんある**農業者年金**に加入して安心して豊かな老後を迎えましょう。

お申し込み・お問い合わせ：下郷農協（管理部）まで



- Q 一重マスの文字をA～Eの順に並べてできる言葉は何でしょうか？
- タテのカギ
- 2 首に掛けるアクセサリ
 - 5 髪はここを中心に渦巻きます
 - 7 釣り人がじっと眺める物
 - 8 安倍川にしますか、砂糖じょうゆで食べますか
 - 9 色が白っぽい——そばは、ソバの実際の中心部分をひいた粉で作ります
 - 11 屋外で写生するときの机代わりCDとも呼ばれるコンパクト
 - 14 腕まくりするとき折る物
 - 15 イチかバチかの大きな——に出た
 - 16 土を盛って造った古代の権力者の墓
 - 17 ある限り全部の物

ヨコのカギ

- 1 新年に寺社へ出掛けて済ませます
- 2 ドライバーで締める物
- 3 解答用紙の——を文字で埋めた
- 4 年表を見ると概要がつかみやすいかも
- 6 騎手が馬に入れる物
- 9 サハラ、ゴビ、タクラマカンといえば
- 10 受話器を離さずに延々と続けます
- 11 自動車の燃料タンクが空っぽの状態
- 13 ——心頭に発する
- 14 父や母の、父
- 16 古い石碑に生えることもあります

クイズの正解者の中から抽選で一名、下郷農協の商品をプレゼントいたします。ふるって応募ください。

応募締切は〇一六年一月〇日(必着)です。

① クイズのこたえ□□□□□□□□
 ② 住所・氏名・電話番号
 ③ 下郷農協へのご意見(要望など)以上をご記入の上、
 ハガキの方は
 〒871-0431
 大分県中津市耶馬溪町大字大島215-4
 下郷農協 企画部 宛
 Faxの方は〇九七九-五六一-二八八九

*個人情報他社への開示は一切しません。当選者のみ紙面で公表させていただきます。

読者プレゼント パズル？

頭の体操

